

【宮ヶ瀬湖畔】 (宮ヶ瀬湖畔園地)

水の郷交流館: ダム建設によって水没したかつての宮ヶ瀬地域の歴史、文化、産業を伝えると同時に、郷土体験の場づくりとして、湖畔にオープンした施設。

もみの木(クリスマスツリー): 高さ約30mの自生のもみの木。クリスマスの時期には、宮ヶ瀬のジャンボクリスマスツリーとして1万個のイルミネーションが灯される。

水の郷大つり橋: 遊覧船のりばの棧橋をまたいでかかる、橋長315m、歩行者専用の日本一の吊橋。

水の郷 大噴水「虹の妖精」: 30m上がる直上噴水を中心に、3列に放射状に広がる噴水を「花」に見たて、冬場を除き太陽光を利用し、人工的に「虹」を発生させるプログラムが備わっており、クラシック音楽に合わせ、姿、形が変わる。

【宮ヶ瀬ダム・宮ヶ瀬湖】

清川村、相模原市、愛川町にまたがる中津川上流部において、建設省により建設された多目的ダム。昭和44年にダム計画発表以来、31年をかけて、平成12年12月に完成。重力式コンクリー総貯水量:約2億m³、(芦ノ湖とほぼ同じ)、ダムの高さ:156m、(黒部ダム186m)。「洪水調節」、「流水の正常な機能の維持」、「水道用水の供給」(1日最大130万m³)、(横浜市や川崎市など15市5町にくばられ、神奈川県内の90%の家庭に供給)。「発電」(最大出力242万kwおよび120万kwの2つ)(一般家庭2万5,300世帯の年間使用量に相当)を担う。

【石小屋ダム】

宮ヶ瀬ダムの下流0.8kmにある。正式名称は宮ヶ瀬副ダム。別名石小屋ダム。目的は、愛川第一発電所の逆調整池、津久井導水のための水位確保、宮ヶ瀬ダムの放流水の減勢の3つ。さらに、下流への放流水を利用して愛川第二発電所で発電。堤高が34.5mと河川法上におけるダムの定義を満たしており、通常のダムとして扱われる。

形式:重力式コンクリートダム、 提高:約34.5m、 提頂長:約87m。